【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成25年10月24日(2013.10.24)

【公表番号】特表2013-532574(P2013-532574A)
【公表日】平成25年8月19日(2013.8.19)
【年通号数】公開・登録公報2013-044
【出願番号】特願2013-523248(P2013-523248)
【国際特許分類】
Ａ４３Ｄ　21/00　　(2006.01)
Ａ４３Ｄ　25/06　　(2006.01)
Ａ４３Ｄ　86/00　　(2006.01)
Ａ４３Ｂ　 9/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４３Ｂ　10/00　　１０１Ｄ
Ａ４３Ｂ　10/00　　１０１Ｃ
Ａ４３Ｂ　 9/00

【手続補正書】
【提出日】平成25年9月5日(2013.9.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
履物を製造する一般の方法においては、保形（ラスティング、つり込み）工程が施される。詳しくは、アッパーの半分以上が、足の概形を有する靴型（ラスト）の周囲に形成されかつ配置される。その後、このアッパーを靴型の周囲に締め付けるために様々な方法が用いられ、これにより、アッパー内の空洞に足の概形がつくられる。靴型の周囲に運動靴のアッパーを締め付けるために、例えば、シュトローベル材料が、足の裏に対応する靴型の領域に亘って拡がるように、アッパーの低位周辺に固定されることが多い。その後、アッパーの低位周辺とシュトローベル材料とにソール構造体が固定されると、製造がほぼ完了する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
製造工程のこの段階において、アッパー３０は、比較的ゆるく靴型５０を覆うように延在している。例えば、図１０Ｄを参照すると、アッパー３０が靴型５０を覆って比較的ゆるくフィットする構成であるため、アッパー３０と靴型５０との間に多少のギャップが形成されている。しかし、図９Ｅおよび図１０Ｅに示されるように、靴型５０の周りにアッパー３０を締め付けるために、ストランド４２が引っ張られるか或いは緊張させられる。ストランド４２が緊張させられることにより、アッパー３０が靴型５０の表面に押し付けられるように引っ張られて靴型５０の形状になる。すなわち、ストランド４２を緊張させることにより、アッパー３０内の空洞が足の形状となるようにする。ストランド４２がストリップ４１を通って延びていて、ストリップ４１を通って動くことつまり摺動することができる場合、ストランド４２を緊張させることはまた、アッパー３０のほぼ全長に亘っ

てストリップ４１を互いに接近させる効果を有する。従って、ストランド４２を緊張させることの効果としては、概して、（ａ）靴型５０の周りにアッパー３０を締め付ける効果と、（ｂ）ストリップ４１を互いに接近させるように引っ張る効果と、がある。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】

編物構成要素６０を組み込む履物１０または他の履物を製造する工程において、編物構成要素６０の表面を引っ張って靴型に押し付けるように、ストランド６３が緊張させられ得る。従って、ストランド４２を有する場合と同様に、ストランド６３は、履物１０の保形工程において、編物構成要素６０を靴型５０の形状にするために使用され得る。すなわち、ストランド６３を緊張させることにより、履物の形状にするように編物構成要素６０内に空洞を生じさせる。ストランド６３が編物構成要素６０の両側方つまり両側の低位周縁に亘って延在し、これら両側方つまり両側の低位周縁に亘って動くことつまり摺動することができる場合、ストランド６３を緊張させることはまた、編物構成要素６０のほぼ全長に亘って両側方つまり両側の低位周縁を互いに接近させるように引っ張る効果がある。従って、ストランド６３を緊張させることの効果としては、概して、（ａ）靴型の周りに編物構造体６０を締め付ける効果と、（ｂ）編物構造体６０の両側方つまり両側の低位周縁を互いに接近させるように引っ張る効果と、がある。ソール構造体は、張力を受けると、編物構成要素６０に固定され、この編物構成要素６０からストランド６３を取り除くことができる。